

アドヒアランス向上のため視覚に訴える！ イラストを使った服薬指導

株式会社 アルファーム

○吉田 祐子 牧島 義明 大関 宏実 山崎宏実 細谷 義長
増田 稔 上野 雅広 吉田 幸正 田口 雅一

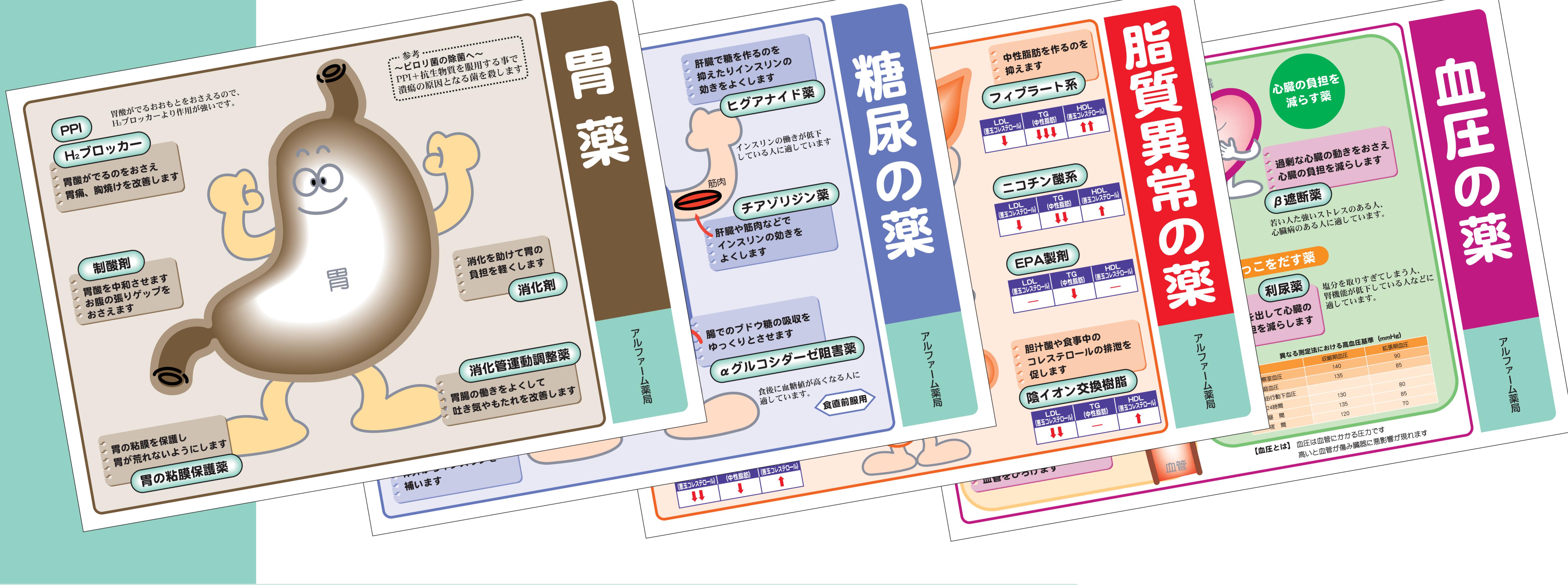
はじめに

私たちには日々の服薬指導業務時に様々な患者さんに出会う。指示通り服用しない患者さん、検査値にまったく興味のない患者さん。はたしてそのような人たちはどのような気持ちで薬を服用しているのだろうか？そして一見コンプライアンスの良い患者さんでも、各々の薬は何に効果がある、どんな種類の薬なのかを耳からの説明だけで理解できているのだろうか、という疑問を常々持っていた。

そこで自分の飲んでいる薬を耳からだけでなくイラストを用いて目からも理解してもらうと、薬に対しての意識が高まるのではないかと考えた。

目的

口頭による説明時にイラストを用いて、患者さんの理解レベルにあわせ薬効や薬の種類を説明する。患者さんの視覚に訴えることで、薬に興味を持ってもらい、アドヒアランス向上（自分自身の医療に自分で責任を持って治療法を守る）を目指す。そして生活習慣病などの治療効果を上げる手助けをする。



方法

高血圧症・脂質異常症・糖尿病・胃薬の薬効ボードを作成

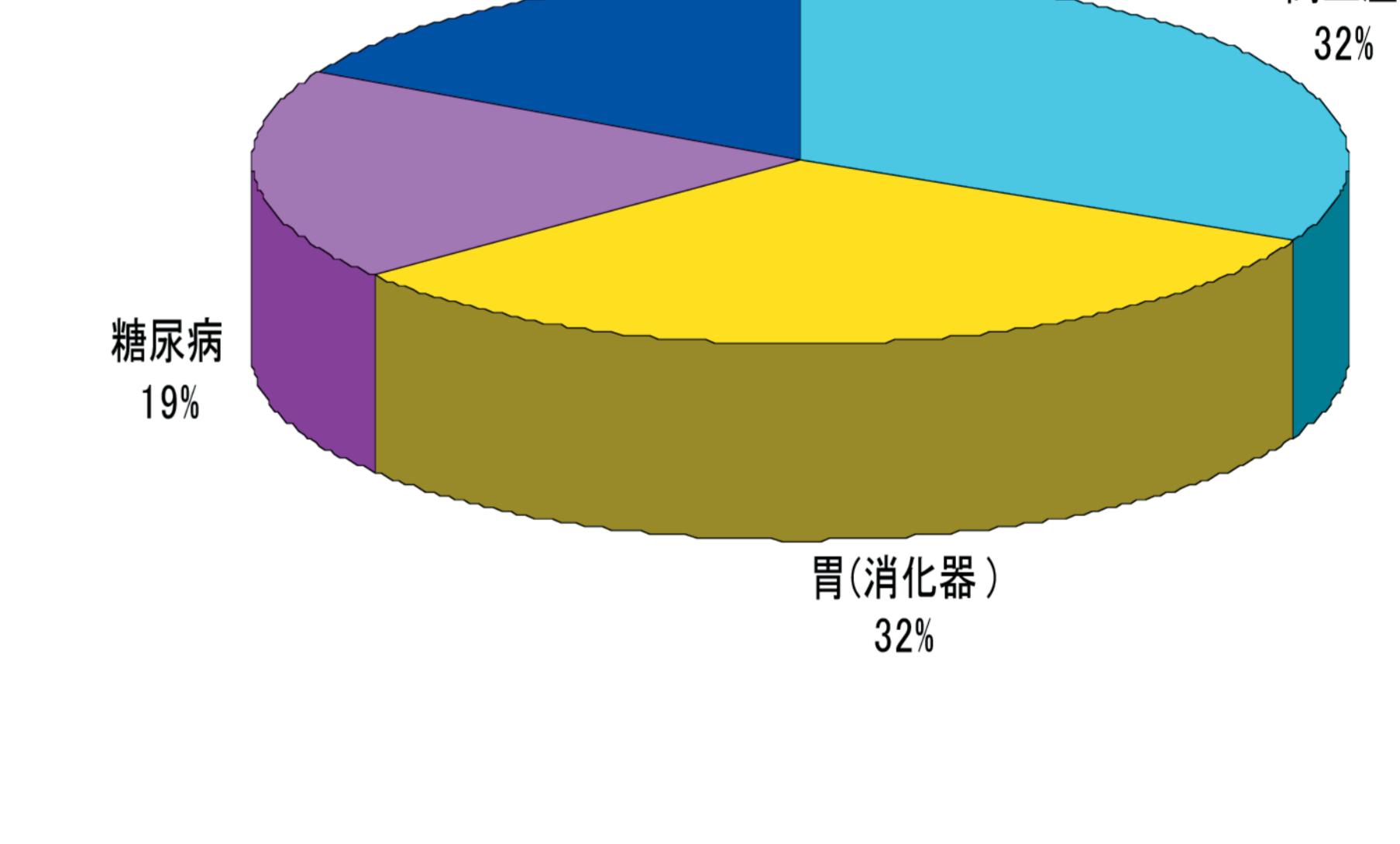
レベル1 自分の服用している簡単な薬効の理解

レベル2 自分の飲んでいる薬の種類を覚えてもらう

対象患者 (初めて薬が処方。追加処方・薬効に興味のある患者)
にアンケート実施

アンケート内容 説明が理解できたか？ボードの説明はよかったです？
きちんと服用できそうか？

薬効ボード疾患別アンケート実施割合



結果

- ①薬効ボードを用いた服薬指導は一定の効果と有用性を確認できた。
②ボードを用いた説明により患者の理解と薬識の向上につながった。

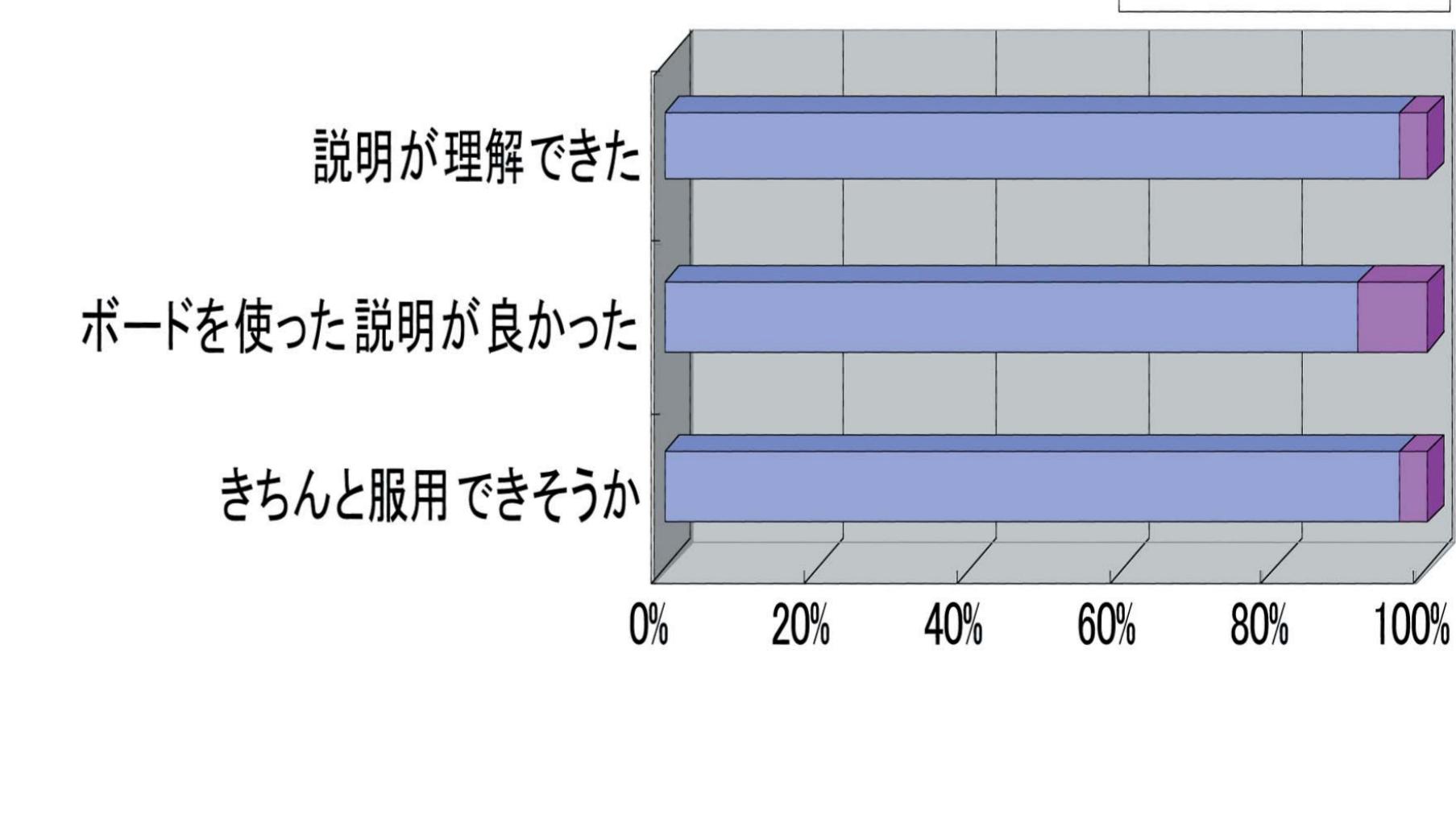
考察

聴覚だけでなく、視覚に対して訴えかけることにより患者さんが服薬の意義を感じているように見受けられた。薬に理解度を向上させる服薬ツールとしての発展性を感じられた。

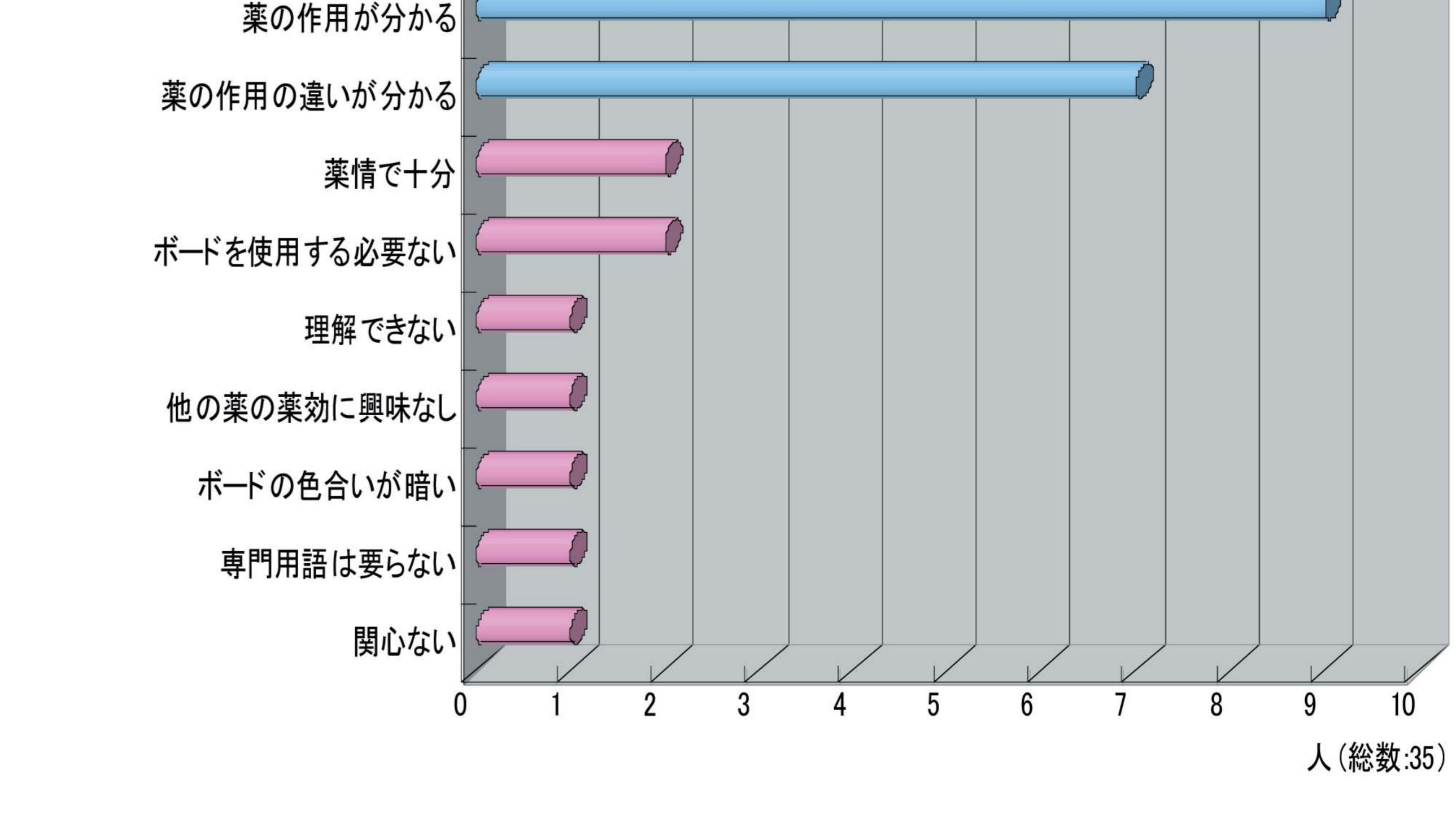
課題

薬をなぜ飲む必要があるか？飲まないとどういったことになるか？を詳しい効能と症状等をのせることにより、さらなるアドヒアランス向上を目指したい。

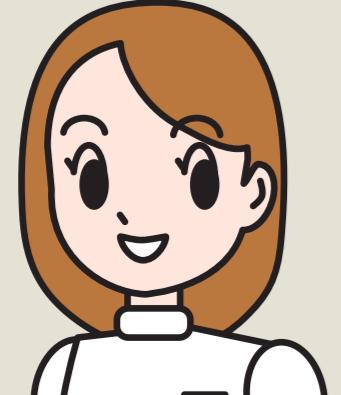
薬効ボードアンケート疾患別年代分布



薬効ボードを使った説明に関するアンケート

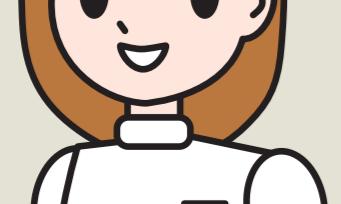


連絡先



皆様のご意見を頂戴して、これからも改善していきたいと思ってあります。

ご意見、ご感想をいただける方は下記までご連絡をお願い致します。



アルファーム薬局 並木店 〒321-1271 栃木県日光市並木町1-14 TEL 0288-30-3355 FAX 0288-22-7744
E-mail : namiki@alpharm.co.jp URL : http://www.alpharm.co.jp